

平成 29 年度練馬区災害医療運営連絡会 第一回専門部会会議概要

- 1 日時 平成 29 年 6 月 22 日（木）午後 7 時 00 分～8 時 45 分
- 2 会場 練馬区役所本庁舎 7 階 防災センター
- 3 出席 大野委員、齋藤委員、伊澤委員、江原委員、杉田委員、
光定委員、高崎委員、
清水委員（地域医療課長）、宇都宮委員（防災計画課長）、
枚田委員（医療環境整備課長）、太田委員（石神井保健相談所長）
欠席：上原委員、山本委員、秦委員
- 4 公開の可否 公開
- 5 傍聴者 0 名
- 4 次第
- 1 開会
 - 2 議事録について
 - (1) 平成 28 年度練馬区災害医療運営連絡会第三回専門部会会議要録
 - (2) 平成 28 年度練馬区災害医療運営連絡会会議要録
 - 3 議題
 - (1) 平成 29 年度専門部会の検討事項および検討スケジュール（案）について
 - (2) 災害時における医療救護班等活動マニュアルの策定について
 - (3) 災害用カルテ等の運用方法について
 - 4 報告事項
 - (1) 平成 29 年度医療救護所訓練について
 - (2) 災害医療支援医療機関の変更について
- 5 資料
- 資料 1 平成 28 年度練馬区災害医療運営連絡会第三回専門部会会議概要
資料 2 平成 28 年度練馬区災害医療運営連絡会会議概要
資料 3 平成 29 年度専門部会の検討事項および検討スケジュール（案）について
資料 4 「災害時における医療救護班簡易活動マニュアル（卓上型）」の作成について
資料 5 災害医療卓上型マニュアル骨子案作成について
資料 6 災害用カルテ
資料 7 平成 29 年度医療救護所訓練の実施について
資料 8 災害時医療機関・透析医療機関一覧

6 会議概要

(部会長)

【開会あいさつ】【委員あいさつ】

「平成 28 年度練馬区災害医療運営連絡会第三回専門部会会議要録」(資料 1)と「平成 28 年度練馬区災害医療運営連絡会会議要録」(資料 2)については、事前送付させていただいているので説明を割愛させていただきます。

質問等はあるか。なければ次に進む。

議題に入り、「平成 29 年度専門部会の検討事項および検討スケジュールについて」(資料 3)について説明を事務局にお願いします。

(事務局)

【資料 3 の説明】

(部会長)

スケジュールに関しては、最低限の検討事項であって、医療救護所訓練など追加検討項目も今後出てくるかと考えている。質問や意見がなければ、次の議題に進む。

「「災害時における医療救護班簡易活動マニュアル(卓上型)の作成について」」(資料 4)と「災害医療卓上型マニュアル骨子案作成について」(資料 5)について事務局より説明をお願いします。

(事務局)

【資料 4、資料 5 の説明】

(部会長)

分厚いマニュアルでは普段見ないので、テーブルに置けるかつ災害時に持ち運びができるものという発想で議論をしてきた。本日は「12 か月のカレンダー型」にするのか「日めくり型」にするのかを中心に議論を交わして決めていきたい。

(委員)

カレンダー型にするとカレンダーはどこに入ることになるのか。

(事務局)

23 ページのとおり、ページ上部に小さく入ることになる。

(委員)

これだと机に出すとは思えない。表はカレンダーになっていて、裏に情報という方が良いと思う。

現在 31 ページで作成しているが、これを 24 ページにしたときの削除対象は考えているのか。

(事務局)

ある程度、優先順位を付けて、ページを統合しながら、体系を変えないように進めていこうと考えている。

(委員)

マニュアルの内容が全然周知できていないと感じる。せつかくなら区民が見ることも考えて、カレンダーの内容を作りこんだ方がよいのではないか。PDF ファイルであれば、職員にも配ることができる。

(部会長)

区民が PDF ファイルを通じて、周知・啓発に使っていただくことが可能になるので検討する。

(事務局)

個人情報や備蓄医薬品情報を除き公開を前提として作成するので、PDF ファイルも可能とは考える。

(委員)

どこに医薬品があるのか、どこが調剤所になるのかだけ分かって、医薬品備蓄庫に行けば、医療救護所設置の流れが分かるというものを考えている。医療救護所ごとに作成しないといけないことになるが、医薬品が無くなったという事例もあるので公開は避けてもらいたい。

(部会長)

備蓄庫に置くなどさまざまな使い方も想定される。ありがとうございます。

(委員)

カレンダー型でも日めくり型でも災害意識の薄い方は置かない。普段は診療所に置いておいて、いざというときに持ち出すことができるものだとは認識している。そうであれば、日勤帯での地震で持ち出すものと考えれば、情報量が多い日めくりの方がよいと思う。

(部会長)

医療救護所に参集する方を対象に配布するものなので、周知をしていくことは課題のひとつとなる。マニュアルを持たなくても、医療救護所に行き、活動できるように普段から眺めてもらいたい。

(委員)

日めくりだとどのような仕様になるのか。

(事務局)

カレンダーと同様に卓上型となる。

(委員)

興味のない人にも見てもらうためには、カレンダー型にして、まず置いてもらうことを目指した方がよいのではないかと。上部にカレンダーを入れるだけではカレンダーとして機能しないので机には置かないのではないかと。

(部会長)

カレンダー型にして、どう内容を凝縮するのかということも一つの方向性かと思う。

(委員)

今せっかく作成するのであれば、アプリにしてはどうか。

(部会長)

一年やってみて、必要であれば段階的にアプリへの移行を検討する。アプリにすることで課題が解決するのであればありだと思う。

(委員)

まず、最初の一年は、内容を凝縮してカレンダー型にして、置いてもらうことに重点を置くのもよいと話を聞いていて感じた。

(委員)

日めくりだと目に触れるのが一日だけということになる。カレンダーだと一か月間同じ面が出ているので、嫌でも覚えるかもしれない。

(部会長)

カレンダー型であれば、細かいところは覚えられなくても、何となくわかるという状態にはもって

いきたい。

(委員)

まずは、1年見てもらうことを目的にカレンダー型にしてもよいと思う。

(委員)

関係機関連絡先の一覧や医療救護所のマップ等、本当に大事なものだけ入れてカレンダー型にしてもよいかと思う。

(委員)

情報をいかに減らすかということも大切だと思うので、12か月型の方がよいのではないかと。カレンダー部分の空きスペースに裏面の内容のタイトルを記載すれば、裏面にも目が行く。

(事務局)

カレンダーのデメリットは、カレンダーだけ見て、裏面が全く気にならないところ。工夫の余地もあるところなので、検討する。

(部会長)

日めくり型よりもカレンダー型へ話がシフトしているので、12か月のカレンダー型にするということ
と
にする。7月末までに意見や要望等を事務局まで上げてほしい。

次の議題に移る。「災害用カルテ等の運用方法について」(資料6)について、事務局より説明をお願いする。

(事務局)

【資料6の説明】

(委員)

災害用カルテについて、裏面にも氏名等記載箇所があるので、そちらも本人や補助者や従事者が書けるかと思う。必須加入箇所を示してもらえれば、多少簡単に感じられるのではないかと。

トリアージタグにあらかじめ実施場所等を記入しておくのは、かなり手間がかかるのでは。書いてあった方が楽であることは確か。

(委員)

私が勤務している病院では、「病院の名前(実施場所)」と「通し番号」だけは記入してある。

(部会長)

時間のあるときに書くべきだという考えはある。当日にその場で書いていくことは難しいだろう。準備としてどこまで整えておくべきか考えておく必要がある。

(委員)

説明の中で、地域のボランティアの方々が、歩けるかどうかで1次トリアージをするとのことだったが、それは正常な運用ではない。

本来トリアージポストは1か所で、START法を用いる。ただ、前回の医療救護所訓練では、知識のないボランティアの方が、歩行の有無だけ判断していた。歩けるかどうかの判断の後にトリアージポストへ向かうことにしないといけないと思う。

(事務局)

現状の練馬区の訓練の流れとしては、大量に負傷者が発生することを見込んで、まずは歩けるか歩な

いかで1次トリアージをし、タグを付けて、2次で本格的にはトリアージをすることにしている。

(委員)

前回の訓練時に、2次トリアージの場所は確保できていたか。

(事務局)

重中等者の処置室である保健室を、2次トリアージ場所にしてている。

(委員)

それはマニュアルに書いてあることか。マニュアルと訓練で別のことをしてもらっては困る。数年前の訓練では、薬剤師会や歯科医師会の先生とトリアージポストで、START法を用いてトリアージをした記憶がある。

(部会長)

ここ数年は、2つのトリアージをしているので、過去の経緯を含め、その点については整理してあらためて議論させていただく。

(委員)

トリアージタグについて、東京都医師会のDMATの講習に参加した際に、また、37ページにあるように、「追加・修正に備え、枠内のスペースを残し上に詰めて記載する」ことになっている。

訓練の際には、そのようにできていなかったと記憶している。

(部会長)

そのような周知も現在はできていないというのが実情である。

(委員)

軽症者については、カルテやトリアージタグにご自身で記入できる箇所を記入してもらおう方がよいと思う。

(委員)

J-SPEEDの目的としては、後からどのようなインパクトのあった災害だったかを評価することにもある。評価するための最低限の項目は必要。ただ、情報量も多いので、教育や訓練のときに議論していくべき。東日本大震災では、カルテ裏面の処方欄への記載で、あとから費用の弁償があったと聞いている。こういうところを残すことも重要である。誰が記載するかということに関しては、そんなにこだわらなくてもいいと思う。

(部会長)

誰が書くかを縛るというよりは、全体的な理解を深めていくことが重要だと考えている。

(委員)

重中等者に関しては、医師が書く余裕はないと思うので、口頭で書き取ってもらうという形になる。

(部会長)

看護師の確保を含めて、さまざまな課題が残っている。看護師については、イベント等を通じても人数を確保するよう努力するが、委員の皆さまにおかれましても、引き続き事前登録などの制度へのご協力をお願いしたい。

(委員)

訓練の際に、トリアージタグの複写の1枚目を運ぶことについてルールが定められていなかった。

(部会長)

区の職員が運ぶことにはなっているが、訓練での人数の確保含めてなかなかうまく運用できていない。

(委員)

前回の谷原中学校での訓練では、中学生が患者役や伝令の役割を担って活躍していた。

(部会長)

限られた人員で運営していかななくてはならないが、一定の共通認識は必要だろう。

(部会長)

議題は以上になり、報告事項に移る。「平成 29 年度医療救護所訓練の実施について」(資料 7) について事務局より説明をお願いします。

(事務局)

【資料 7 の説明】

(部会長)

「平成 29 年度医療救護所訓練の実施について」(資料 7) について質問や意見等はあるか。

(委員)

石神井西中学校については、まだ準備が整っていないとのことだったが、ではまだ実施していない大泉西中学校でできないのか。

(事務局)

大泉西中学校では、大規模改修が予定されているので、今後仮設校舎での訓練を検討している。

(部会長)

他になれば、次の報告に移る。「災害時医療機関・透析医療機関一覧」(資料 8) について事務局より説明をお願いします。

(事務局)

【資料 8 の説明】

(委員)

医療機関について、年に 1 回など協力の継続確認をしているのか。

(事務局)

練馬区医師会と協定を結んで、医師会を通じて確認等をしている。区からは、ニュース等案内があれば、ご連絡をする。

(部会長)

それでは、最後に次回の災害医療運営連絡会専門部会の日程の調整をさせていただく。

以上で、練馬区災害医療運営連絡会第一回専門部会を終了する。